

(翻訳) スペインの児童文学と児童に対する図書館サービス

読書の歴史と新しい傾向について

Portell Rifà, Joan. “La literatura i les biblioteques per a nens i nenes a Espanya: Una petita introducció a la història i a les noves tendències de la lectura”

日本・スペイン文化経済交流センター エクステンション

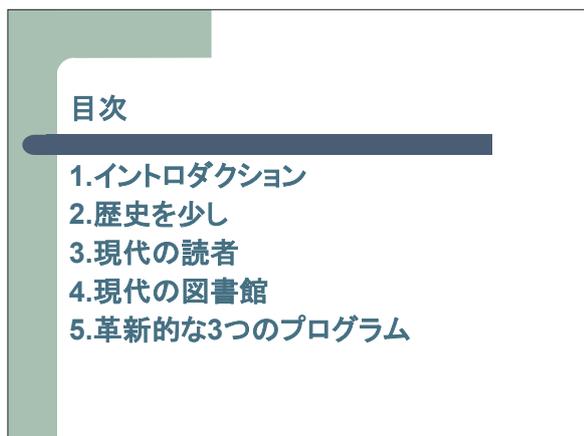


本日はようこそお越しくございました。

まず、私が情熱を傾けている児童文学・読書・図書館といったテーマについて、皆さまの前で話す機会をくださった白百合女子大学に御礼申し上げます。本日、お越しくくださった皆さまにも御礼申し上げます。わずかな時間ですが、この講演会が、互いに何かを学び、楽しむ時間になるよう祈っています。

これからお話する内容は、大きく三つに分かれています。最後のパートは更に三つのテーマに分かれています。きっと皆様に興味をもっていただける内容だと思います。

「第1章：イントロダクション」では、皆様に背景を理解してもらうために、スペインの言語と文学の多様性についてご紹介します。私たちスペイン人は十分承知していることですが、一般的に、一つの国で話されているのは一つの言語だと考えられることが多いからです。



「第2章：歴史を少し」では、数世紀にわたる児童文学の歴史を簡単にご紹介します。この章の終わりでは、何名かの作家とイラストレーターに焦点をあて、先程お話しした言語パラメータに従って発展してきた4つの文学についてお話しします。

最後の章は、「3. 現代の読者」「4. 現代の図書館」「5. 革新的な三つのプログラム」という三つのテーマで構成されています。この章では、最近の読書を取りまく変化についてとりあげます。今日の読者についてわかっていることから、大変なスピードで発展している現代の変化に応える新しい図書館の提案や新しい読書プログラムの提案までをお話しします。

1. イントロダクション

スペインの位置

第1章：イントロダクション

ご存じのとおり、スペインは、ヨーロッパ大陸の南西にあるイベリア半島の大部分を占めています。日本との時差は8時間です。日本でベッドに入る夜9時あるいは10時頃は、スペインでは昼食の時間です。

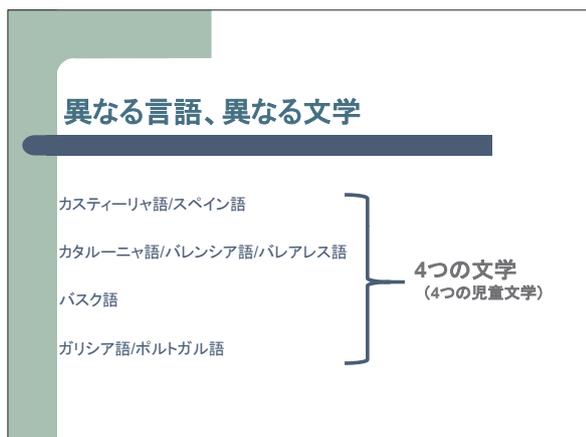
次のスライドの地図で、スペイン国内の言語区分を確認することができます。

スペインの位置

スペインの位置

スペインの公用語はカスティーリャ語ですが、カスティーリャ語は主にイベリア半島の中央部で話されています。

地中海沿岸ではカタルーニャ語が話されています。カタルーニャ語は、話す地域によって、つまり方言ということになりますが、バレンシア語、バレアレス語と呼ばれることもあります。カタルーニャ語を話す人の数は900万人にのぼります。スペイン語やフランス語やイタリア語と同じく、ラテン語を起源とする言語です。



スペインの北部ではバスク語が話されています。バスク語を話す人の数は約 100 万人です。バスク語の起源は明らかになっていませんが、日本語と少し似ているところもあります。

大西洋沿岸ではガリシア語が話されています。ポルトガルやブラジルでもガリシア語が変化した言語が話されています。現在、スペインでガリシア語を話す人の数は 3 百万人ほどです。しかしながら、ブラジルではブラジル語と呼ばれて公用語にも

なっており、世界中ではおよそ 2 億人が話している言語です。

言語とは文化であると言われるように、スペインには四つの公用語があり、異なる四つの文化が発展してきました。その結果、異なる四つの文学が発展したのです。スペインでは定期的に 4 言語で本も出版され、それぞれの言語の読者がいます。



第 2 章：歴史を少し

文学の歴史は西暦 1000 年頃に始まります。日本は鎌倉時代だった頃で、まだ一般の人々は文字を読むことができませんでした。その頃、聖書の一節を普及させようと、教会は絵画で装飾をはじめました。その一例が、Sant Climent de Taüll (サン・クレメンテ・デ・タウ

り) 教会です。ピレネー山脈のこの小さな教会の後陣 (アプス) には、パンクラトールが描かれています。また、修道院の柱頭にみられる彫刻や、Seu d'Urgell (セウ・ドゥルジェイ) のベアトゥス写本を飾る細密画もその一例です。

Ramon Llull (1232-1316)

『La doctrina pueril
(子どものための教義)』
自身の息子と、8歳から12歳の全ての子どもたちを
対象に宗教教育を目的として考案された本
(カタルーニャ語)

『El llibre de les bèsties(獣の本)』
どちらが動物界の王になるべきかを選んで
肉食動物と草食動物が議論するお話
(カタルーニャ語)



当時、特に傑出していた人物が Ramon Llull (ラモン・リュイ) です。ラモン・リュイはカタルーニャ人で、哲学者であり、賢人であり、作家でもありました。200冊以上にのぼる書物の著者で、その後の西洋の思想に影響を与えました。児童文学では、「La doctrina pueril (こどものための教義)」「El llibre de les bèsties (獣の本)」の2冊が特に有名です。いずれも児童の宗教教育を目的としたものでした。

しかし、ある事が文学を大きく変えました。(1450年頃にはじまった)ヨハネス・グーテンベルクによる活版印刷技術の発明です。この発明は、これまで教会だけのものだった知識を広めることができるようになったことを意味していました。日本では足利氏が将軍だった時代に、西洋ではこのような出来事が起こっていたのです。

印刷技術の普及によって、モダンな考え方をもちた出版社が生まれました。なかでもスペインで目立つのは、Publicacions de l' Abadia de Montserrat (モンセラット修道院出版) です。この出版社は1498年創業ですが、現在も出版を続けています。世界でもっとも古くからある出版社です。

Johanes Gutenberg (1398-1468)

聖書 (1450年頃)
(足利将軍の時代 1336-1573年)



印刷技術の普及

世界最古の出版社Publicacions de l'Abadia de Montserratが創業を開始(1498年)。現在も出版を続けている。PAM



文学は普遍的になり ヨーロッパに児童文学が誕生する

1484年『イソップ寓話』カクストン出版社

(江戸時代 1603-1868年)

1658年 コメニウス 『目に見える世界絵図』最初の児童文学 (?)
1697年 シャルル・ペロー 『がちょうおばさんの話』
1719年 ダニエル・デフォー 『ロビンソン・クルーソー』
1726年 ジョナサン・スウィフト 『ガリバー旅行記』
1812年 グリム兄弟(ヤーコプとヴィルヘルム)
1819年 アマデウス・ホフマン 『くるみ割り人形とねずみの王様』
1835年 H.Ch.アンデルセン 『子どものための童話集』

文学は普遍的になり ヨーロッパに児童文学が誕生する II

1826年 J. フェニモア・クーパー 『モヒカン族の最後』
1850年 Ch.ディケンズ 『デイヴィッド・コパフィールド』
1865年 ヴィルヘルム・ブッシュ 『マックスとモーリッツ』
1883年 J.R.ステューブソン 『宝島』

-ラドヤード・キップリング
-ジュール・ヴェルヌ
-ルイス・キャロル
-ジェームス・マシュー・バリー
-カルロ・コッローディ
-マーク・トウェイン など



文学は普遍的なものに変わりました。児童文学も同じ変化をとげました。代表的なのは、1484年にカクストン出版社によって、子どものために出版された最初の本「イソップ寓話」です。以降、コメニウスのような児童文学を専門とする作家が出てきました。コメニウスの著書「Obris sensualium pictus (目に見える世界図絵)」は、子どもを対象とした最初の絵本とみなされています。その他にも、シャルル・ペロー、ダニエル・デフォー、グリム兄弟、ハンス・クリスチャン・アンデルセンなどの作家が挙げられます。

19世紀に児童文学は普遍的なものとなり、各国の文学界で真の作家とみなされる人々が出てきました。イタリアのコッローディ、イギリスのバリー、フランスのアレクサンドル・デュマなどです。当時、日本は江戸時代でした。

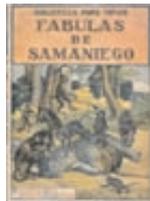
では、スペインの児童文学は？



1750年 Félix de Samaniego
『Fábulas morales』

1874年 Fernán Caballero
『La educación pintoresca』

1876年 Editorial Saturnino Calleja
1884年から民話を中心に集めた
児童書の出版を開始。



当時の児童文学は、4言語それぞれに 伝わる民話や民間伝承に根付いている

- ㊦ 1804年 バスク語: Bizenta Mogel 『Ipui onac』
- ㊦ 1876年 カスティーリャ語/スペイン語: 『Cuentos de Calleja』
- ㊦ 1896年 カタルーニャ語: Jordi des Racóの『Rondaies mallorquines』
や Jacint Verdaguer, Joan Amades, Josep Carner, Enric Valorなどの
作家によって集められた民話
- ㊦ 1921年 ガリシア語: Xoán Vicente Viqueira, Vicente Risco, Álvaro
Cebreiro...など。Riscoによって集められ、Cebreiroが挿絵を描いた
『Contos pra nenos』

初の子ども向け雑誌の誕生



1904年 雑誌 Patufet
(カタルーニャ語)

1917年 雑誌 TBO
(カスティーリャ語)



では、スペインはどうだったでしょう。19世紀のスペインでは、まだ独自の児童文学を生み出すには至っていませんでした。当時のスペインは、カトリックの教えに基づいた倫理教育モデルを第一としていました。当時の国内最大の出版社が、民話を集める Saturnino Calleja (サトゥルニノ・カジェハ) だったことが、当時の状況を示しています。

スペインの4言語において、それぞれの

伝統が集められ、子どもたちに伝えられました。バスクの女流作家 Bizenta Mogel (ビセンタ・モゲル) の「Ipui onac (イプイ・オナク)」、先ほど述べたスペイン語の「Cuentos de Calleja (カジェハのお話)」、カタルーニャ語では Verdaguer (バルダゲー)、Amades (アマダス)、Jordi des Racó (ジオルディ・デス・ラコー) といった作家によって集められた民話、そしてガリシア語では Risco (リスコ) の「Contes pra nenos (子どものお話)」などが挙げられます。

同時期に、小さな子どもたちのための雑誌も誕生しました。カタルーニャ語の「el Patufet (アル・パトゥフェツ)」(1904年)や、創刊100周年を誇るスペイン語の「TBO (テベオ)」などです。

しかし、1936年から1975年までの間...



フランコ將軍の独裁政治

- ⓧ 一般的にスペイン語として知られるカスティーリャ語以外の言語での出版の禁止
- ⓧ カスティーリャ語/スペイン語以外の言語で話すことの禁止
- ⓧ カスティーリャ語/スペイン語以外の言語を使って学校で教育することの禁止
- ⓧ 文化は、フラメンコと闘牛のみを認める
- ⓧ 宗教は、カトリックのみを認める
- ⓧ 教育は、カトリック教会の支援を受けたナショナリズムのみを認める

しかしながら、1936年にフランコ將軍が民主的に選ばれた政府に反旗を翻し、スペイン内戦が始まります。内戦は3年間におよびました。クーデターは成功し、フランコはスペイン総統となり、40年間の独裁政治が続きます。

独裁政治はすぐさま文学に悪影響をもたらしました。

- ・カスティーリャ語以外の言語での出版を禁じる
- ・カスティーリャ語、つまりスペイン語以外の言語で話すことを禁じる
- ・カスティーリャ語、つまりスペイン語以外の言語を使った学校教育を禁じる
- ・文化は、フラメンコと闘牛のみとする
- ・宗教は、カトリックのみとする
- ・教育は、カトリック教会の支援を受けたナショナリズムのみとする

体制の意向に沿った本だけが出版される

ⓧ 1937年9月16日発布の法令:

Selección de una única lectura que sea guía de la enseñanza patriótica y que compendie de manera clara, atractiva y entusiasta lo que de España deben conocer los niños y amarla: su historia, su carácter, costumbres, santos, héroes, etc. Este libro se llamará Libro de España y se impondrá como obligatorio en todas las escuelas primarias.

愛国教育の指導書となる唯一の読本の選択。これは、スペインの歴史、性質、習慣、聖人、英雄など、子どもたちがスペインについて知るべきこと、スペインを愛すべきことを明白かつ魅力的に情熱をもってまとめたものである。この読本を「Libro de España (スペインの本)」と名付け、すべての小学校に義務づける。

政府の意向にそった本しか出版することはできませんでした。くださった命令は次のようなものでした。

“愛国教育の指導書となる唯一の読本の選択。これは、スペインの歴史、性質、習慣、聖人、英雄など、子どもたちがスペインについて知るべきこと、スペインを愛すべきことを明白かつ魅力的に情熱をもってまとめたものである。この読本を、「Libro de España (スペインの本)」と名付け、すべての小学校に義務づける。”

政府に疑問を呈することは許されなかった時代

- Joan Ferràndiz
- Mercè Llimona
- Elena Fortún



政府に対して疑問を呈することは許されませんでした。作家は、問題のないテーマをとってもシンプルなストーリーで表現しなければなりません。作家では、Elena Fortún (エレナ・フォルトウン)、イラストレーターでは、Joan Ferràndiz (ジョアン・ファランディス) と Mercè Llimona (メルセー・リモナ) が、規律正しい教育を受けた子どもたちの幸せな世界を描きました。

しかし、独裁政治にも穴が...

- 進歩主義的な教会の保護を受けて出版された雑誌もありました。



カタルーニャ語

しかし、独裁政治にも穴が...

- 当時の教育革新運動に応えるべく、政府の方針に従わない出版社 (La Galera, 1963年) が誕生。(フランスの出版社Père Castorの影響)



独裁政権には厳しい検閲システムがありましたが、すべてをコントロールすることはできませんでした。カタルーニャ語では、雑誌「Cavall Fort (カバイ・フォルト)」や「l'infantil (リンファンティル)」が、進歩主義的な教会の保護を受け、世に生まれました。

また、フランスの Père Castor (ペール・カストール) といった他の出版社に大きな刺激を受け、La Galera (ラ・ガレラ) などのカタルーニャ語復活のパイオニアとなる出版社が出てきたのもこの時期だったことを忘れてはなりません。

振り返ってみましょう



独裁政治の終わりとともに、児童文学が息を吹きかえす

- スペインの4つの公用語での出版がスタート。
- 4言語で同時に出版する出版社の登場。ひとりの作家を別の言語でも普及させることが可能に。(SM, Edebé, Santillana, La Galeraなど)
- 学校は大きな改革に着手。子どもたちは時代にあった新しい出版物を求めるように。とりわけ、ヨーロッパ文学の新しいトレンドが取り入れられました。
- 死、孤独、いじめなどの新しいテーマも。

1975年に独裁政治が終わり、すべてが変わり始めました。四つの公用語がよみがえります。

独裁政治が終わるとともに：

- ・スペインの四つの公用語での出版がはじまりました。
- ・4言語で同時に出版する出版社（SM, Edebé, Santillana, La Galera など）も現れました。これによってひとりの作家を別の言語でも普及させることが可能になりました。
- ・学校は大きな改革に着手し、子どもたちは時代にあった新しい出版物を求めるようになりました。とりわけ、ヨーロッパ文学の新しいトレンドを取り入れました。
- ・死、孤独、いじめなどの新しいテーマも扱われはじめました。

現代の作者：作家

作家:

- es カスティーリヤ文学:
 - ↳ César Mallorquí
 - ↳ Elvira Lindo
 - ↳ Laura Gallego
- es ガリシア文学:
 - ↳ Xabier P. Docampo
 - ↳ Agustín Fernández Paz



現代の作者。続いて、何百という作者のなかから、それぞれの言語を代表する作家とイラストレーターを紹介します。時間に限りがあるため、ほんの一握りだけ紹介します。

まず作家を紹介します。スペイン語では、イギリスの古典作家の世界感に似たホラーの世界を創りあげる César Mallorquí（セサル・マジオルキ）。Manolito Gafotas（めがねっこマノリート）という愛すべきキャラクターを通じ、大都市の貧しい地域に住

む子どもの世界を描く Elvira Lindo（エルビラ・リンド）。より現代的なファンタジーの世界と作品をリンクさせる Laura Gallego（ラウラ・ガジェゴ）。一般小説家として世界的に有名な Carlos Ruíz Zafón（カルロス・ルイス・サフォン）もそのひとりです。ガリシア語の作家に関しては、現代ジュブナイルの批評家 Xavier P. Docampo（シャビエー・P・ドカンポ）。そして、ガリシアの人々に伝わる伝説や習慣や物語を復活させ、現代化させた Agustín Fernández Paz（アグスティン・フェルナンデス・パス）があげられます。

現代の作者：作家

作家:

- es カタルーニヤ文学:
 - ↳ Jordi Sierra i Fabra
 - ↳ Maite Carranza
 - ↳ Care Santos
- es バスク文学:
 - ↳ Bernardo Atxaga
 - ↳ Patxi Zubizarreta



カタルーニヤの作家では、数多くの作品の著者である Jordi Sierra i Fabra（ジョルディ・シエラ・イ・ファブラ）。三部作「El clan de la lloba（狼の入門）」で過去と現在をつないでみせた Maite Carranza（マイテ・カランサ）。偉大な社会批評家である Care Santos（カラ・サントス）があげられます。そして最後にバスクの作家では、一般小説家として知られるもののジュブナイルでもその実力をみせる Bernardo Atxaga（ベルナルド・アチャガ）。ヨーロ

ッパの批評のリアリズムをバスク州に位置づけた Patxi Zubizarreta（パッチ・スビサレタ）があげられます。

現代の作者: イラストレーター

↳ バスクの児童文学:



Asun
Balzola



Elena Odriozola



Jokin Mitxelena



Iban Barrenetxea



イラストレーターについては、バスク文学から紹介します。

Asun Balzola (アスン・バルソラ)。偉大なアクリル画家です。日本のいわさきちひろを彷彿とさせます。

Elena Odriozola (エレナ・オドリオソラ)。白い背景に描かれた軽いタッチが語りかけてくるようです。昨年、スペインから、国際アンデルセン賞の候補者として推薦されました。

Jokin Mitxelena (ジョキン・ミチエレナ)。

観察眼の鋭いイラストレーターで、ユーモアあふれる作品を描きます。

そして、若き Iban Barrenetxea (イバン・バレネチェア)。すぐに彼の作品とわかる独特の表現で描きます。

現代の作者: イラストレーター

カタルーニャの児童文学:

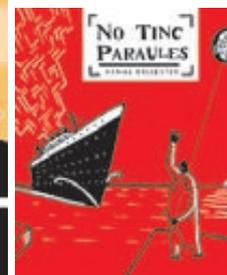
Roser Capdevila



Carme Solé



Arnal Ballester



Ignasi Blanch



カタルーニャ文学について紹介します。
Roser Capdevila (ルゼー・カップダビラ)。誰もが知っている「Les tres bessones (三つ子のだいぼうけん)」の主人公たちと同じく、最も国際的なイラストレーターです。

有名な Carme Solé (カルマ・スレー)。ブラティスラヴァ世界絵本原画展での受賞歴があります。

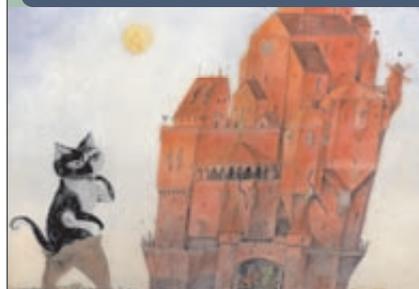
Arnal Ballester(アルナル・バリエステル)。既存のものを壊し、新しい視点をもたらすイラストレーションの偉大な革新家です。

Ignasi Blanch (イグナシ・ブランク)。とても独特な絵を描くことができる作家で、私が大好きな1冊のイラストを手がけた人物でもあります。

現代の作者: イラストレーター

カスティーリャの児童文学:

Jesús Gabán



Emilio Urberuaga



Pablo Auladell



Pablo Amargo



カスティーリャ文学の豊かな世界からは次のイラストレーターを紹介します。

Jesús Gabán (ヘスス・ガバン)。古典的な表現ともっとも現代的な表現を完全にミックスすることができるイラストレーターです。

Emilio Urberuaga (エミリオ・ウルベルアガ)。先に述べた Elvira Lindo (エルビラ・リンド) をはじめ、著名な作家にイラストを提供しています。

Paulo Auladell (パウロ・アウラデイ)。イラスト界に登場した型破りなアーティストです。

Pablo Amargo (パブロ・アマルゴ) の視線はいつも楽しく、興味深いものです。

現代の作者: イラストレーター

✎ ガリシアの児童文学:

Xan López Domínguez



ガリシア文学に進みましょう。
Xan López Domínguez(シャン・ロペス・ドミンゲス)。数年前、国際アンデルセン賞の候補者としてスペインから推薦されました。

そして、Dani Padrón (ダニ・パドロン)のような期待の新星もいます。

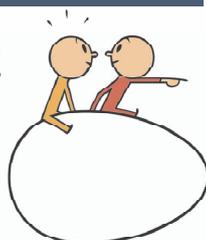
Dani Padrón



カタルーニャ語:
ボローニャ国際児童図書展2017の名誉ゲストに

SHARING
A FUTURE

Books in Catalan
in Bologna 2017



2017年、世界最大の児童文学展示会であるボローニャ国際児童図書展に、カタルーニャ語が名誉ゲストとして招かれています。このことから、それぞれの児童文学とその言語の規模を理解することができるでしょう。

3. 現代の読者

スペインの読者と図書館に吹く新しい風

ここ数十年の間に...

読者とその習慣

読書

図書館

に大きな変化が訪れました

第3章：現代の読者

ここから今日の講演の3つめのパートに入ります。スペインの読書、読者、図書館の現状を少し紹介します。現在の状況に目を向けて、未来への提言をしたいと思います。

スペインの読者と図書館に吹く新しい風

ここ数十年の間に、

- ・読者とその習慣
- ・読書
- ・そして図書館に

大きな変化が訪れました。

データ紹介

面積:

- スペイン: 506,000 km²
- 日本: 378,000 km²

人口:

- スペイン: 46,800,000人 (92人/km²)
- 日本: 127,000,000人 (335人/km²)

データを少し紹介します。

・面積:

スペインが50万6千平方キロメートル、日本が37万8千平方キロメートル。

・人口:

スペインが4千680万人(1平方キロメートルあたり92人)

日本が1億2千700万人(1平方キロメートルあたり335人)

・読者の習慣:

スペイン人の59%が、日常的に読書をしています(1年に1冊以上)。

日本人の91%が、日常的に読書をしています(ユネスコ調べ)。

・1週間あたりの読書時間:

スペインでは週に5.8時間

日本では週に4.06時間

・人口に対する図書館の比率:

スペインでは、10万人あたりの図書館数は14

日本では、10万人あたりの図書館数は2.31(大学や学校の図書館、その他特殊な図書館は含まない)

データ紹介

読者の習慣:

- スペイン人の59%が、日常的に読書をしている(1年に1冊以上)
- 日本人の91%が、日常的に読書をしている(ユネスコ調べ)

1週間あたりの読書時間:

- スペインでは週に5.8時間
- 日本では週に4.06時間

人口に対する図書館の比率:

- スペイン:10万人あたりの図書館数は14
- 日本:10万人あたりの図書館数は2.31

(大学や学校の図書館、その他特殊な図書館は含まない)

データ紹介

- ⌘ 1年間に出版される新刊:
 スペイン: 1年間に91,000の新刊を出版
 内、 カスティーリャ語が70,000
 カタルーニャ語が15,000
 ガリシア語が3,500
 バスク語が2,500
 日本: 1年間に70,000の新刊を出版
- ⌘ 児童書:
 スペイン: 1年間に16,000の児童書の新刊を出版
 日本: 1年間に8,000の児童書の新刊を出版

- ・ 1年間に出版される新刊:
 スペインでは、1年間に91,000の新刊が出版されます。
 その内、カスティーリャ語が70,000、カタルーニャ語が15,000、ガリシア語が3,500、バスク語が2,500
 日本では、1年間に70,000の新刊が出版されます。
- ・ 児童書:
 スペインでは、1年間に16,000の児童書の新刊が出版されます。
 日本では、1年間に8,000の児童書の新刊が出版されます。

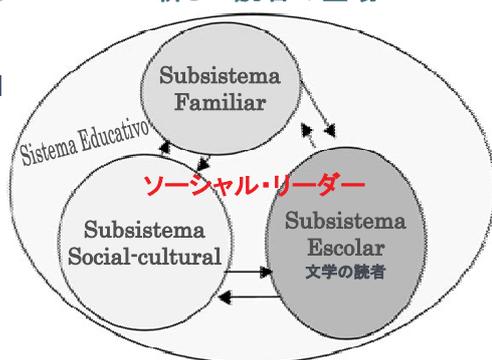
典型的な読者の形に現在起きている変化

- ⌘ 読書のフォーマットは紙だけではない
- ⌘ 知識は本以外からも得ることができる
- ⌘ 読書とは単に文字を読むことではない
- ⌘ 知識は不変ではなく、毎日培われていくもの
- ⌘ 読者は動的で、読書の数だけ変化する
- ⌘ 変化するのは個人だけではない。読者は社会に影響を与え、社会は読者に影響を与える

現在、典型的な読者の形に変化が起きています。

- ・ 読書のフォーマットは紙だけではない
 - ・ 知識は本以外からも得ることができる
 - ・ 読書とは単に文字を読むことではない
 - ・ 知識は不変ではなく、毎日培われていくもの
 - ・ 読者は動的で、読書の数だけ変化する
 - ・ 変化は個人だけではない。読者は社会に影響を与え、社会は読者に影響を与える
- 新しい読者の登場

新しい読者の登場



- Lector social、つまり Social reader
- Sistema Educativo、教育システム
- Subsistema Familiar、家庭サブシステム
- Subsistema Social-cultural、社会文化サブシステム
- Subsistema Escolar、学校サブシステム

ソーシャルリーダーがすべき 読書へのアプローチとは

- ⓧ 読書はグループのアイデンティティーを示すものであるべき: 君のようになりたい、君の仲間になりたい、だから、私は読む
- ⓧ 読書を促し、読書の好みを発展させる
- ⓧ 読書を広げ、様々な経験とリンクさせる
- ⓧ 読書がもうひとつのアクティビティーとなるような機会や状況を周囲につくりだす
- ⓧ 音楽、映画、ファッションと同じように、読書が消費文化になるように働きかける

新しい読者のニーズ

- ⓧ より高い創造力がほしい
- ⓧ より多くの方法がほしい
- ⓧ グループやペアや個人で活動したい、しなくてはならない
- ⓧ 知りたい、発見したい、できる、の主体は読者
- ⓧ 社会全体がプロセスに介入すべき

新しいテクノロジー



- ⓧ 新しいテクノロジーは、敵ではなく、味方
- ⓧ 問題は新しいテクノロジーではなく、ユーザー
- ⓧ 新しいテクノロジーの使用と習慣について、正しく教育することは皆の責任
- ⓧ ソーシャルネットワークには、同じ目的をもつ読者のネットワークをつくりだす力がある。このチャンスを逃さないようにしましょう。

ソーシャルリーダーは、次のように読書にアプローチするべきです。

- ・読書はグループのアイデンティティーを示すものであるべき。
君のようになりたい、君の仲間になりたい、だから、読む。
- ・読書を促し、読書の好みを発展させる
- ・読書を広げ、様々な経験とリンクさせる
- ・読書がもうひとつのアクティビティーとなるような機会や状況を周囲につくりだす
- ・音楽、映画、ファッションと同じように、読書が消費文化になるように働きかける

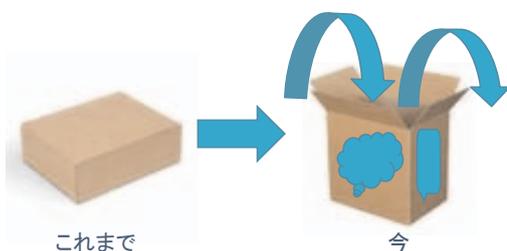
新しい読者には、次のようなニーズがあります。

- ・より高い創造力がほしい
- ・より多くの方法がほしい
- ・グループやペアや個人で活動したいし、しなくてはならない
- ・知りたい、発見したい、できる、の主体は読者です。
- ・社会全体が、プロセスに介入しなければなりません。

新しいテクノロジー

- ・新しいテクノロジーは、敵ではなく、味方です。
- ・問題は新しいテクノロジーではなく、ユーザーです。
- ・新しいテクノロジーの使用と習慣について、正しく教育することは皆の責任です。
- ・ソーシャルネットワークは、同じ目的をもつ読者のネットワークをつくりだすことができます。このチャンスを逃さないようにしましょう。

4.現代の図書館



これまでの図書館はもうありません 新しい図書館の時代です！

新しい読者が必要としているのは、
創造し、共有し、読み、調べる場である図書館

知識を創り出し、社会全体のためにそれを活性化する図書館



新しい図書館:新しい問いかけ

1. 新しい挑戦に対して図書館はどのように行動すべき？
2. 図書館の仕組みや機能をどのように変えるべき？
3. この変化に対して図書館員はどのような役割をになうべき？
4. ユーザーにどのような図書館を期待するか尋ねましたか？若い世代には？
5. 様々なニーズや可能性をもつ様々なユーザーの図書館利用を検討していますか？
6. 新しいテクノロジーの利用を検討していますか？
7. 様々な働き方を検討していますか？

第4章：現代の図書館

これまでの図書館から今の図書館へ

ただ本を借りるためや勉強するために人々がやってくる本の倉庫としての図書館はもう存在しません！21世紀の読者ニーズに応える新しい図書館が必要です。インターネット、本、人などの様々なツールから知識が入る図書館。議論し、会話し、考え、創造する図書館が必要です。図書館は、これまでとこれからのクリエイティビティの中心に変わります。

ひとつの時代が終わり、新しい時代が始まります。古い図書館はなくなりました。新しい図書館の時代です！

新しい読者は、創造し、共有し、読み、調べる場である図書館を必要としています。知識を創り出し、社会全体のためにそれを活性化する図書館です。図書館は文化や新しいアイデアを生み出す場へと変わらなければなりません。知識をたくわえる代わりに、知識を生み出し、広める図書館。新しい読者がそのカギを握っています。

新しい図書館は、新しい問いかけをしなければなりません。

1. 新しい挑戦に対して図書館はどのように行動すべきか
2. 図書館の仕組みや機能をどのように変えるべきか
3. この変化に対して図書館員はどのような役割をになうべきか
4. ユーザーにどのような図書館を期待するか尋ねましたか？若い世代には？
5. 新しいテクノロジーの利用を検討していますか？

6. 様々なニーズや可能性をもつ様々なユーザーの図書館利用を検討していますか？
7. 様々な働き方を検討していますか？

共有するための
スペースをつくりだす



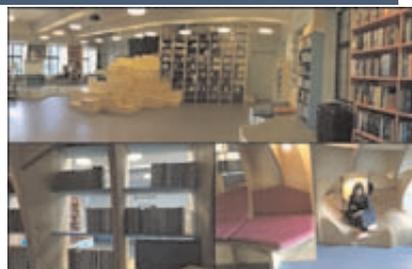
図書プール



読者が図書館に行かないなら
図書館が読者のところに行く



読書スペースのアイデア



図書館スペースのデザインを変えなければなりません。例えば、共有するためのスペース。サン・セバスチアンの Tabakalera（タバカレラ）図書館のように、ユーザーが映画やゲームをシェアすることができる場所です。

もしくは、図書プール。夏にはプールに入りながら読書できる場所です。写真では見えませんが、プールは右側にあります。

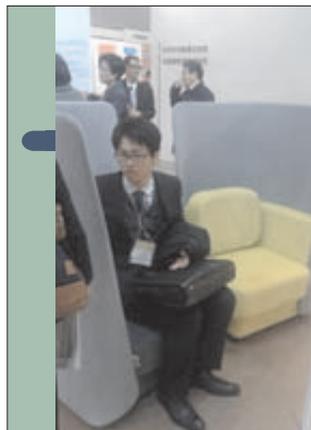
もしユーザーが図書館に行かないなら、図書館がユーザーのところに行けばいいのです。たとえば、スーパーマーケットの隣にあるこの図書館は、スーパーの営業時間にあわせて開館しています。

読書のためのプライベートな場をつくる必要があります。ひとりでする読書も、親と一緒にする読書も、素晴らしい経験であるべきです。例として紹介する写真は、新しいアイデアを集めたノルウェーの図書館です。同じひとつの場が、皆に発表する場にも、ひとりで読書する場にもなります。

図書館デザインの可能性



武蔵野プレイス



ちょっとしたことを変えるだけで大きな効果が

図書館総合展(横浜)

効果的な活動

- ⓧ 読書クラブ
- ⓧ ソーシャルネットワークでの活動
- ⓧ 旅するスーツケース(移動図書館)
- ⓧ 新刊の展示
- ⓧ 本の再発見を目的としたテーマ別展示
- ⓧ 作家やイラストレーターの展示と講演会
- ⓧ 作家訪問
- ⓧ 専門家、保護者、地域の高齢者などによるお話し会
- ⓧ 学校のための図書セット
- ⓧ 料理、保存食、創作ワークショップ
- ⓧ 文学創作教室
- ⓧ 文学コンテスト(若い世代が主役「Atrapallibres」)

では、どのような図書館がデザインできるでしょうか。東京の西部にある武蔵野プレイスの図書館の地下2階を例にあげましょう。ここに何が隠されているのか、探しに行ってみてください。

ちょっとしたことだけを変えればいいこともあります。たとえば、横浜の図書館総合展にあるこのコーナーチェア。まだ行ったことがなければ、行ってアイデアを得てみてください。

ここで、効果的な活動をいくつか紹介し

ます。どれも、新しい図書館のために行われているもので、スペインではしばしば実行されています。

- ・読書クラブ
- ・ソーシャルネットワークでの活動
- ・旅するスーツケース(移動図書館)
- ・新刊の展示
- ・本の再発見を目的としたテーマ別展示
- ・作家やイラストレーターの展示と講演会
- ・作家訪問
- ・専門家、保護者、地域の高齢者などによるお話し会
- ・学校のための図書セット
- ・料理、保存食、創作ワークショップ
- ・文学創作教室
- ・文学コンテスト(若い世代が主役のコンテスト「Atrapallibres(アトラパリブラス)」)

5. 3つの革新的なプログラム

5.1. Laboratori de lletres i imatges 文字と画像の実験室



文字と画像の実験室とは？

- ⌘ Laboratori de lletres i imatges (文字と画像の実験室)は、Roca Umbert図書館内にあるクリエイティブスペース。家族で、広い意味での読書に関わる様々な実験ができる場所です。五感を使った読書、画像と音の読書、文学創作ゲーム、芸術的な詩の想像などを体験できます。
- ⌘ 家族が直接関わって、文学の教育を受けることができます。
- ⌘ この実験室の出発点は子どもでゴールも子ども。本から出発して本に戻ります。
- ⌘ 活動開始:2005年

第5章：3つの革新的なプログラム

バルセロナ近郊の図書館が行っている革新的なプログラムを3つ紹介します。読者を社会の一員と捉える新しい視点を持ち、社会全体が読書を促していくべきだという考えに基づいたものです。

5.1. Laboratori de lletres i imatges (文字と画像の実験室)

図書館員がしっかりと関わる必要があります。

実験室とはなんでしょうか？

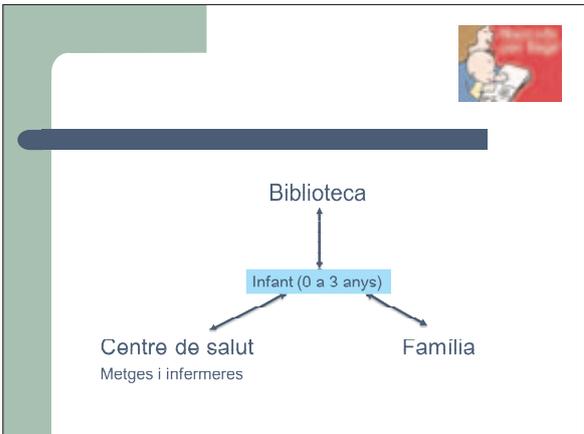
- ・文字と画像の実験室は、Roca Umbert (ロカ・ウンベルト) 図書館内にあるクリエイティブスペースです。家族で、広い意味での読書に関わる様々な実験ができる場所です。五感を使った読書、画像と音の読書、文学創作ゲーム、芸術的な詩の想像などを体験できます。
- ・家族が直接関わって、文学の教育を受けることができます。
- ・この実験室の出発点は子どもでゴールも子どもです。本から出発して本に戻ります。
- ・この活動は2005年に始まりました。

5.2. Nascuts per llegir 読むために生まれた



Nascuts per Llegirとは？

- ⓧ Nascuts per Llegir (NPL) (読むために生まれた)は、0歳から3歳の子供が読書を楽しむことを目的としたプログラム。本とリンクした感動的でポジティブな経験をつくりだし、そこから親と子のコミュニケーションツールをつくりだします。
- ⓧ 活動開始:2004年



- ⓧ 14,000以上の家族が「読むために生まれた」と関わる
- ⓧ 45%の家族が図書館来館経験あり(60%は来館せず)
- ⓧ 活動プログラムの数は、1,800
- ⓧ 来館歴のある家族の77.5%が、日常生活の中で毎日読書する時間をつくるように
- ⓧ 小さな子ども向けの本の貸し出し数は、188,817冊
- ⓧ 保護者向けの本の貸し出し数は、106,405冊
- ⓧ Facebookのフォロワー数は1,400

5.2. Nascuts per llegir (読むために生まれた)

読むために生まれたは、0歳から3歳の子供が読書を楽しむことを目的としたプログラムです。本とリンクした感動的でポジティブな経験をつくりだし、そこから親と子のコミュニケーションツールをつくりだします。この活動は2004年にはじまりました。

0歳から3歳の子供が読書に親しめるように、図書館、家族、医者がしっかりと関わります。

特に目立つのは、図書館にやってきた家族の77.5%が、日常生活の中で毎日読書する時間をつくるようになったという結果です。

5.3. Municipi Lector 市民読書活動

読書促進プログラム



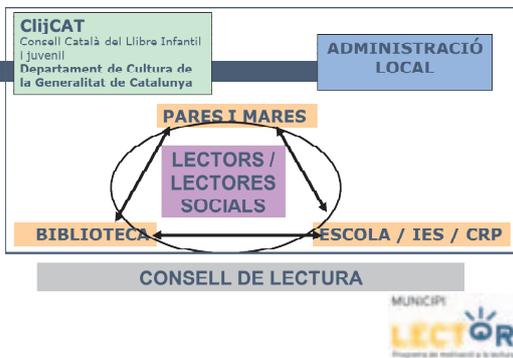
Municipi Lectorとは？

あらゆる市町村の児童や青少年に読書を普及させる提案。
公的機関、民間団体、家族や家族以外の団体など、あらゆる
種類の団体が関わるが可能。

活動開始：2005年



プログラムの枠組み



5.3. Municipi Lector（市民読書活動）読書促進プログラム

市民読書活動とは？

- ・あらゆる市町村の児童や青少年に読書を普及させる提案。公的機関、民間団体、家族や家族以外の団体など、あらゆる種類の団体が関わるすることができます。
- ・この活動は 2005 年にはじまりました。

これから読書をはじめめる子どもにフォーカスし、保護者、図書館、学校や教育機関がひとつになって、子どもを読書に近づけるよう働きかけます。図書館は学校や教育機関と同じくらい重要な教育の場になります。

「図書館のこわい夜」という興味深い活動もあります。この日、子どもたちは図書館に泊まります。

その他の情報

Joan Portell Rifàブログ

☞ Llibres al Replà:
<http://llibresalrepla.blogspot.jp/>

☞ Dos dits de front:
<http://dosditsdefront.cat/>

インターネット

- ☞ GRETEL バルセロナ自治大学 <http://www.gretel.cat/>
- ☞ Consell Català del Llibre per a Infants i Joves 国際児童図書評議会 (IBBY)カタルーニャ支部:
www.cclij.org/faristol
- ☞ OEPLI スペイン児童青少年図書団体: www.oepli.org
- ☞ Centro de estudios de promoción de la lectura infantil: www.uclm.es/cepli/
- ☞ Bienvenue sur le site Ricochet : www.ricochet-jeunes.org
- ☞ ANILIJ スペイン児童青少年文学研究協会:
www.uvigo.es/anilij

インターネット

- ☞ Xarxa telemàtica educativa de Catalunya:
www.xtec.es もしくは
xtec.es/recursos/lit_inf/index.htm
- ☞ Cavall Fort: www.edu365.com/vadellibres もしくは
www.cavallfort.net/
- ☞ Babar 児童青少年文学雑誌: www.revistababar.com/
- ☞ Xarxa de Biblioteques de la Diputació de Barcelona: www.diba.es/chilias
- ☞ Fundació Germán Sánchez Ruipérez:
www.fundaciongsr.es
- ☞ Sol-e 児童青少年読書オリエンテーションサービス:
www.sol-e.com

新聞

- ☞ *Cuadernos de Literatura Infantil y Juvenil*. CLIJ (月刊)〈カスティーリャ語〉
- ☞ *Faristol* Consell Català del Llibre per a Infants i Joves (年4回)〈カタルーニャ語〉
- ☞ *L'illa*. Edicions Bromera (年4回)〈カタルーニャ語〉
- ☞ *Beinola*. Galtzagorri Elkarte (バスク語)
- ☞ *Peonza* サンタンデル(カンタブリア州)〈カスティーリャ語〉
- ☞ *Cavall Fort* (各週)〈カタルーニャ語〉
- ☞ *La revue des livres pour enfants* パリ:
 La joie par les livre〈フランス語〉

ブログ、ウェブ、専門新聞で、スペインの児童青少年文学の現状をより詳しく知ることができます。ありがとうございました。